



# QFN 通信

Qshu Forest Network News

NPO 法人 九州森林ネットワーク

巻頭文 理事長 北里 耕亮(熊本県 小国町)

第 18 号 since2005.6.1

発行日 2015.4.2

桜のつぼみも膨らんで、もうじき花の見どころを迎えそうな今日この頃、会員の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。第 18 号の九州森林ネットワーク通信(QFN)をお届けします。

本号では、福岡市で開催しました第 19 回九州森林フォーラムの報告を掲載しています。泊みゆき氏と梶山恵司氏からは木質バイオマスエネルギー利用の現状や課題について基調講演をいただきました。その後のパネルディスカッションでは 3 名の方に事例報告をいただき、現場からの声が聞かれました。翌日は再生エネルギーを利用した施設などの現地見学会を糸島市で行い、盛況のうちにフォーラムを終えることが出来ました。この場を借りて、関係者の皆さまに厚くお礼申し上げます。

今後も川上から川下までを関係する、木質バイオマスエネルギー問題については当 NPO で論議していきたいと思っております。

最後に、5 月 15～16 日に会員向けプレミアム研修会を開催します。今回は、「公共建築物への国産材の利活用を調べる」がテーマです。新しい建築方法として注目を浴びている CLT 製造工場や大断面集成材利用施設の見学・意見交換などを予定しています。

多数の会員の皆さまの参加をお待ちしています。

<発行>

NPO 九州森林ネットワーク

本部：大分県日田市

<編集責任>

熊本県・小国オフィス



## ドライブポイント紹介

(写真) 熊本県小国町  
旧国鉄宮原線 幸野川橋梁  
「竹筋によるアーチ橋」  
(国有形文化財)  
遊歩道として整備されているので、橋梁を渡れます。これからの行楽シーズンに最適です。

## 【目次】

第 19 回九州森林フォーラム  
の報告 P.2～P.4



## 第19回九州森林フォーラム I N福岡報告

「今、木質バイオマスのあり方を考える」～地域の森林をエネルギー資源に活かすために～

NPO法人九州森林ネットワークは、これまで九州の町と山々を繋ぎ、持続的な山村と林業について、地域材を活用した家造りについてなど、多くのテーマでフォーラムを開催してきました。19回目となる今回のフォーラムでは、「今、木質バイオマスのあり方を考える」をテーマとして、バイオマスの基礎知識から、海外バイオマス事情、そして九州の現状について学び、森林所有者や山村が木質バイオマス需要にどのように対応すべきかについて議論しました。

10月31日（金）

### 基調講演

フォーラムでは、泊みゆき氏、梶山恵司氏により基調講演が行われました。



(1) 泊みゆき氏(とまり みゆき)

NPO法人「バイオマス産業ネットワーク」理事長  
による基調講演

「木質バイオマスのエネルギー利用の現状と課題」

### パネルディスカッション

コーディネート：佐藤 宣子氏(九州大学大学院教授)

パネリスト：中坊 真氏(NPO法人九州バイオマスフォーラム事務局長)

橋本 秀利氏(宮崎県日向市林業水産課長)

梅田 義輝氏(宮崎県諸塚村議会議員、林業家)

オブザーバー：泊 みゆき氏、梶山 恵司氏

(2) 梶山恵司氏(かじやま ひさし)

富士通総研経済研究所世界バイオマスエネルギー協会  
常任理事による基調講演

「木質バイオマスのチャンスと課題」



## 11月1日（土）現地見学会

### ■ 松園製作所

薪ストーブ用の松園式燃焼ユニット、ロケットストーブ等を見学しました。



松園式燃焼ユニット



ロケットストーブ

### ■ 伊都の湯どころ

オーストリアの燃焼システム（チップボイラー）による温浴施設を見学しました。



チップボイラー設備



燃焼設備

### ■ 糸島市貯木場・伊都山燦

木の駅プロジェクトを見学しました。



集材所風景



記念撮影

## ■ 参加者数

フォーラム参加者	70名
交流会参加者	36名
見学会参加者	33名

## ■ 参加者からのコメント

- ・木質バイオマス関係について、大手業者が大型工場を設置して根こそぎ木材を使い五年後に共倒れしてしまう。又、限りある資源が短期でなくなってしまう。植林が追い付かない状態が続く可能性がある。(森林ボランティア関係、自然保護関係／60歳以上)
- ・現状日本ではF I Tの導入によって、数十か所の木質バイオマス発電が稼働または予定されている実状にある。…どうすれば、「発電」でもなりつつのか。(研究者／40歳代)
- ・泊さんのお話はとてもわかりやすかった。いろんなレベルでの経営としてもっともだと思わせる数字と理屈を知ることができた。
- ・パネラーからローカルな話題が提供され、理解しやすかった。
- ・宮崎県の木質バイオマス発電所の具体的な事例(山元価格、施業の推移など)が興味深かった。
- ・チラシの内容をコンパクトにしてほしい。(森林ボランティア関係／50歳代)
- ・地域残材を利用するにしても収集するときにエネルギーを必要とする。残材も徹底すると山地の養分を奪うことになる。持続的な利用が実現するだけの資源があるのか疑問。(元森林技術者／60歳以上)
- ・山側も意見をいわなければならない。(その他／60歳以上)
- ・木質バイオマス発電に対して批判的な意見が多い中でF I Tの制度を利用した発電が稼働し、メリットを感じている層は川上～川下の中のどこにいるのか疑問。(学生／20歳代)

…など

〈まとめ〉

内容がわかりやすかったという感想とともに、木質バイオマス工場の稼働に反対意見が多い中でも計画が収まらない現状に疑問をもつ人が多かったようです。

## ■ 会員向けプレミアム研修会について

5月15日(金)～16日(土)に鹿児島県において会員向けプレミアム研修会を行います。多数の会員の方の参加をお待ちしております。詳細は別添の募集案内のとおりです。